

略年譜

一九三四年一〇月二十五日茨木県に生まれる

学歴

- 一九五七年 三月 同志社大学法学部卒業
一九六〇年 三月 同志社大学大学院法学研究科修士課程修了
一九七三年 三月 同志社大学から法学博士の学位取得

職歴

- 一九六五年 四月 同志社大学法学部専任講師
一九六七年 四月 同志社大学法学部助教授
一九七三年 四月 同志社大学法学部教授（現在に至る）
一九七四年 四月 同志社大学大学院法学研究科修士課程教授
一九七六年 四月 同志社大学法学部長（一九七八年三月三十一日まで）
一九七七年 四月 同志社大学大学院法学研究科博士後期課程教授
一九七九年 四月 同志社大学長（一九七九年一二月まで）

- 一九七九年 四月 学校法人同志社理事 (一九八〇年三月まで)
- 一九九五年 四月 同志社大学大学院総合政策科学研究科長 (一九九九年三月まで)
- 一九九九年 六月 学校法人同志社評議員 (二〇〇二年五月まで)
- 一九九九年 八月 学校法人同志社理事 (現在に至る)
- 二〇〇一年 四月 学校法人同志社総長 (現在に至る)
- 二〇〇二年 一月 中国武漢大学客員教授 (現在に至る)
- 二〇〇四年 九月 中国人民大学客員教授 (現在に至る)

学会及び社会における活動等 (関係団体委員等)

- 一九七五年 五月 日本刑法学会理事 (二〇〇〇年五月三二日まで)
- 一九八一年 七月 財団法人犯罪被害者救済基金評議員 (現在に至る)
- 一九八二年 七月 宇治市教育委員 (一九九八年六月まで)
- 一九八三年 一月 司法試験審査委員 (一九九五年五月まで)
- 一九八四年 三月 法と精神医療学会理事長 (二〇〇〇年 三月まで)
- 一九八五年 五月 法制審議会少年法部会委員 (一九八九年 五月まで)
- 一九八八年 四月 京都府精神保健福祉審議会委員 (現在に至る)
- 一九八八年 二月 法制審議会刑事法部会委員 (二〇〇一年一月まで)
- 一九九〇年 七月 日本学術会議会員 (二〇〇〇年七月まで)
- 一九九二年 八月 文部省大学設置・学校法人審議会専門委員 (一九九七年三月まで)

- 一九九六年 四月 京都市精神医療審査会長（現在に至る）
- 一九九七年 四月 放送大学客員教授（二〇〇一年一〇月まで）
- 一九九七年 四月 文部科学省（文部省）大学視学委員（二〇〇四年三月まで）
- 一九九七年 五月 法務省人権擁護推進審議会委員（二〇〇二年三月まで）
- 一九九八年 六月 日本被害者学会副理事長（二〇〇一年六月まで）
- 二〇〇〇年 五月 社団法人京都犯罪被害者支援センター理事長（現在に至る）
- 二〇〇〇年 五月 法制審議会委員（二〇〇五年一月まで）
- 二〇〇一年 一月 財団法人京都市文化観光資源保護財団評議員（現在に至る）
- 二〇〇一年 四月 財団法人国際高等研究所評議員（現在に至る）
- 二〇〇一年 四月 財団法人関西文化学術研究都市推進機構評議員（現在に至る）
- 二〇〇一年 五月 財団法人関西文化学術研究都市推進機構総合企画委員会委員（現在に至る）
- 二〇〇一年 五月 財団法人関西文化学術研究都市建設推進協議会委員（現在に至る）
- 二〇〇一年 五月 キリスト教学校教育同盟理事（二〇〇三年三月三十一日まで）
- 二〇〇一年 六月 京都コンベンションビューロー理事（現在に至る）
- 二〇〇一年 六月 財団法人世界人権問題研究センター評議員（現在に至る）
- 二〇〇一年 六月 日本被害者学会理事長（二〇〇四年六月まで）
- 二〇〇一年 七月 財団法人大阪科学技術センター評議員（現在に至る）
- 二〇〇一年 七月 財団法人国際日本文化研究交流財団評議員（現在に至る）
- 二〇〇一年 九月 文化・学術・研究都市建設推進京都府協議会委員（現在に至る）

主要著作目録

同志社法学 五五卷七号 八七〇（二三五八）

二〇〇二年 五月 京都府犯罪被害者支援連絡協議会会長（現在に至る）

二〇〇三年 七月 日本国際連合協会京都本部常任理事（現在に至る）

二〇〇四年 月 日弁連法務研究財団認証評価評議会評議員（現在に至る）

賞 罰

二〇〇三年 五月 米国 Amherst College から名誉博士の学位を受く

主要著作目録

著書（単著・共著）

刑事責任の基礎 一九六八年 成文堂（訂正版・一九七七年）

人格責任論の研究 一九七二年 慶応通信

刑法改正とイギリス刑事法 一九七五年 成文堂

犯罪被害者と補償 一九七五年 日本経済新聞社

被害者の補償 一九七七年 学陽書房

刑事規制の限界 一九七八年 有斐閣

医療行為と法 一九八〇年 弘文堂（新版・一九九〇年、新版補正版・一九九五年、新版補正

第二版・一九九七）

刑法各論・上 一九八二年 成文堂

刑法各論・下

刑法各論の重要問題（上）

刑法各論の重要問題（下）

犯罪被害給付制度（共著）

刑事責任論の展望

刑法各論の重要問題（中）

刑法講義各論

刑法解釈論集Ⅰ

いのちの法律学

最近の医療問題

刑法講義総論

刑法総論の重要問題・上巻

刑法総論の重要問題・下巻

刑事政策講義

刑法各論の重要問題

刑法解釈論集Ⅱ

一九八二年 成文堂

一九八二年 立花書房

一九八二年 立花書房

一九八二年 有斐閣

一九八三年 成文堂

一九八三年 立花書房

一九八三年 成文堂（第二版・一九八八年、第三版・一九九〇年、第四版・一九九四年、第四版補訂版・一九九五年）

一九八四年 成文堂

一九八四年 成文堂

一九八五年 筑摩書房（新版・一九九四年・悠々社、第三版・一九九九年）

一九八五年 同志社大学出版部

一九八六年 成文堂（第二版・一九八六年、第三版・一九八九年、第四版・一九九四年、第四版補訂版・一九九六年）

一九八六年 立花書房

一九八六年 立花書房

一九八七年 弘文堂（第二版・一九九〇年、第三版・一九九四年、第四版・一九九六年）

一九八七年 立花書房（新版・一九九〇年）

一九九〇年 成文堂

主要著作目録

同志社法学 五五巻七号 八七二（三三六〇）

新版刑法総論の重要問題

一九九〇年 立花書房

精神保健法

一九九一年 有斐閣

基礎演習刑事政策

一九九三年 有斐閣

刑事法入門

一九九四年 有斐閣（第二版・一九九五年、第三版・一九九九年、第四版・二〇〇二年）

精神医療の法と人権

一九九五年 弘文堂

刑法総論

一九九六年 成文堂

精神保健福祉法講義

一九九六年 成文堂

刑法学

一九九七年 放送大学教育振興会

刑事司法の展望

一九九八年 成文堂

エキサイティング刑法総論（共著）

一九九九年 有斐閣

エキサイティング刑法各論（共著）

二〇〇〇年 有斐閣

新版刑法講義各論

二〇〇〇年 成文堂（新版追補版・二〇〇二年）

新版刑法講義総論

二〇〇〇年 成文堂（新版追補版・二〇〇四年）

刑法各論

二〇〇一年 成文堂（第二版・二〇〇二年）

明日への挑戦

二〇〇四年 成文堂

編書・監修書

刑法二〇〇題（共編著）

一九七四年 有斐閣

- 刑法総論（共編）
 一九七六年 青林書院新社
- 犯罪被害者補償制度（共編）
 一九七六年 成文堂
- 刑法（1）総論Ⅰ（共編）
 一九七七年 有斐閣
- 刑法（2）総論Ⅱ（共編）
 一九七七年 有斐閣
- 刑法（3）各論Ⅰ（共編）
 一九七七年 有斐閣
- 刑法（4）各論Ⅱ（共編）
 一九七七年 有斐閣
- 刑法（1）各論Ⅲ（共編）
 一九七七年 有斐閣
- 刑法各論（編）
 一九七七年 青林書院新社
- 精神医療と法（共編）
 一九八〇年 弘文堂
- 刑法総論一〇〇講（編著）
 一九八三年 学陽書房
- Victimology in Comparative Perspective（共編）
 一九八六年 成文堂
- 刑法講義各論（共編著）
 一九八八年 有斐閣
- 条解精神保健法（編集代表）
 一九九一年 弘文堂
- 法学リーダーディングス・第二版（共編著）
 一九九一年 成文堂
- エッセンシャル法学（編著）
 一九九二年 成文堂（第二版・一九九六年、第三版・二〇〇一年）
- 要説コンメンタール刑法各論（編著）
 一九九二年 三省堂
- 要説コンメンタール刑法総論（編著）
 一九九二年 三省堂
- 総合政策科学入門（共編著）
 一九九八年 成文堂
- 犯罪被害者支援の基礎（共編代表）
 二〇〇〇年 東京法令出版

犯罪被害者対策の現状 (共編代表)

二〇〇〇年 東京法令出版

犯罪被害者支援と弁護士 (共編代表)

二〇〇〇年 東京法令出版

被害者学と被害者心理 (共編代表)

二〇〇一年 東京法令出版

判例講義刑法I総論 (編著)

二〇〇一年 悠々社

犯罪被害者に対する民間支援 (共編代表)

二〇〇二年 東京法令出版

判例講義刑法II各論 (編著)

二〇〇二年 悠々社

わかりやすいストーリーカー規制法 (監修)

二〇〇二年 有斐閣

翻訳書

スチュアート著・現代イギリス刑法(共訳)

一九七四年 成文堂

分担執筆

不作為犯

一九七〇年 下村康正他編『刑法総論』(法学書院)

違法性

一九七〇年 下村康正他編『刑法総論』(法学書院)

刑罰と保安処分

一九七〇年 片岡昇他編『法と現代社会』(有斐閣)

イギリス

一九七二年 平場安治他編『刑法改正の研究一 概論・総則』(東京大学出版会)

心神喪失と心神耗弱

一九七二年 宮澤浩一他編『判例演習講座刑法一』(世界思想社)

保安処分の種類 (一)

一九七二年 宮澤浩一他編『刑事政策講座・第三巻・保安処分』(成文堂)

横領および背任の罪

一九七三年 平場安治他編『刑法改正の研究二各則』(東京大学出版会)

間接幫助

恐喝の罪

危険の分配と信頼の原則

現代刑事制裁論

放火および失火の罪

溢水および水利に関する罪

現代と死刑

変わりゆく罪と罰

犯罪被告人補償制度

行為責任と人格責任

心神喪失と心神耗弱の意義

責任能力の判定基準

精神病質者の責任能力

過失致死罪と原因において自由な行為

一九七三年 平野龍一編『刑法の判例・第二版』(有斐閣)

一九七三年 平場安治他編『刑法改正の研究二各則』(東京大学出版会)

一九七五年 藤木英雄編『過失犯―新旧過失犯論争』(学陽書房)

一九七七年 中山研一他編『現代刑法講座第一卷』(成文堂)

一九七七年 福田平他編『刑法(5) 各論三』(有斐閣)

一九七七年 福田平他編『刑法(5) 各論三』(有斐閣)

一九七八年 平場安治編『刑罰の思想』(有斐閣)

一九七八年 森下忠他編『刑事政策を学ぶ』(有斐閣)

一九七九年 中山研一他編『現代刑法講座第二卷』(成文堂)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

傷害致死罪と原因において自由な行為

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

限定責任能力と原因において自由な行為

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

「いん唾者」の意義

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

故意の内容

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

条件付き故意

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

未必の故意と殺人

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

未必の故意と贓物故買罪

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

自動車事故と暴行の未必の故意

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

結果回避義務と未必の故意

一九八〇年 内藤謙編『判例ハンドブック』(刑法総論) (日本評論社) (第二版・一九九二年)

暴行と傷害

一九八〇年 西原春夫他編『判例刑法研究第五巻』(有斐閣)

- 未必の故意
 財産罪総説
 過失犯の処罰
 注意義務の根拠
 予見可能性
 信賴の原則
- 一九七七年 藤木英雄編『判例と学説七』（日本評論社）
 一九八八年 小暮得雄他編『刑法講義各論』（有斐閣）
 一九八九年 香川達夫編『判例マニユアル刑法Ⅰ総論』（三省堂）
 一九八九年 香川達夫編『判例マニユアル刑法Ⅰ総論』（三省堂）
 一九八九年 香川達夫編『判例マニユアル刑法Ⅰ総論』（三省堂）

論文

- パウル・ポツケルマンの共犯論に関する研究
 ポツケルマンの人格責任論の理論
 予備と未遂の限界
 人格責任論の準備的研究
 未必の故意について
 人格責任論に関する二つの見解
 未必の故意に関する若干の問題
 わが国における人格責任論の潮流
 英米刑法における精神障害と責任能力の問題
 刑罰量定規準と人格責任論
 意思自由の問題は刑法学上必要か（Ⅰ）
- 一九六〇年 同志社法学一二卷四号
 一九六一年 同志社法学一二卷六号
 一九六一年 同志社法学一三卷三号
 一九六二年 同志社法学一四卷二号
 一九六二年 同志社法学一四卷一号
 一九六三年 同志社法学一四卷七号
 一九六三年 綜合法学六卷一二号
 一九六三年 同志社法学一五卷一号
 一九六四年 同志社法学一五卷六号
 一九六四年 同志社法学一五卷五号
 一九六五年 同志社法学一七卷四号

- 意思自由の問題は刑法学上必要か (2)
- 「未必の故意」再論
- 責任能力と意思の自由 (1)
- 責任能力と意思の自由 (2)
- 責任能力と意思の自由 (3)
- 責任能力と意思の自由 (4)
- 不能犯規定新設の是非 (総論)
- 行為主義と人格責任論 (1)
- 行為主義と人格責任論 (2)
- 行為主義と人格責任論 (3)
- 責任能力についての一考察
- 行為主義と人格責任論 (4)
- 行為主義と人格責任論 (5)
- 行為主義と人格責任論 (6)
- サリドマイド事件と未必の故意 (1)
- サリドマイド事件と未必の故意 (2)
- H・L・A・ハート著「刑法の道徳性」
- 凶器準備集合罪 (刑法二〇八条ノ二) の解釈
- 行為主義と人格責任論 (7)
- 一九六五年 同志社法学一七卷五号
- 一九六五年 同志社法学一七卷一号
- 一九六六年 同志社法学一八卷二号
- 一九六七年 同志社法学一八卷三号
- 一九六七年 同志社法学一八卷四号
- 一九六七年 同志社法学一九卷二号
- 一九六七年 『刑法改正の諸問題』 (有斐閣)
- 一九六八年 判例タイムズ二一九号
- 一九六八年 判例タイムズ二二一号
- 一九六八年 判例タイムズ二二四号
- 一九六八年 『犯罪と刑罰・(上)』 (有斐閣)
- 一九六九年 判例タイムズ二二八号
- 一九六九年 判例タイムズ二二三号
- 一九六九年 判例タイムズ二三八号
- 一九六九年 法律時報四一巻二二号
- 一九六九年 法律時報四一巻二二号
- 一九七〇年 判例タイムズ二五三号
- 一九七〇年 同志社法学二二巻一号
- 一九七〇年 判例タイムズ二四一号

臓器移植をめぐる

一九七一年 刑法雑誌一七卷三・四号

臓器移植をめぐる刑法上の問題点

一九七一年 『刑法と科学・法律編』（有斐閣）

OZ裁判の問題点とイギリス猥褻法の行方（1）

一九七二年 法律時報四四卷四号

OZ裁判の問題点とイギリス猥褻法の行方（2）

一九七二年 法律時報四四卷七号

OZ裁判の問題点とイギリス猥褻法の行方（3）

一九七二年 法律時報四四卷九号

イギリスにおける被害者補償制度の運用状況（上）

一九七二年 ジュリスト五二二一号

量刑基準と量刑相場

一九七二年 同志社法学二三卷三号

イギリスにおける刑事法改正の動向（1）

一九七三年 法学セミナー二二〇号

イギリスにおける刑事法改正の動向（2）

一九七三年 法学セミナー二二一号

イギリスにおける刑事法改正の動向（3）

一九七三年 法学セミナー二二三号

イギリスにおける刑事法改正の動向（4）

一九七三年 法学セミナー二二四号

イギリスにおける刑事法改正の動向（5）

一九七三年 法学セミナー二二五号

イギリスにおける刑事法改正の動向（6）

一九七三年 法学セミナー二二六号

イギリスにおける刑事法改正の動向（7）

一九七三年 法学セミナー二二七号

イギリスにおける被害者補償制度の運用状況（中）

一九七三年 ジュリスト五二二二号

イギリスにおける被害者補償制度の運用状況（下）

一九七三年 ジュリスト五二四号

イギリス刑法の改正について

一九七四年 比較法研究三六号

イギリスにおける刑事法改正の動向（8）

一九七四年 法学セミナー二一九号

死の判定と人工蘇生術の中断

一九七四年 同志社法学二五卷一号

保安処分に対する批判的視点

量刑理由明示をめぐる問題

わが国における犯罪被害者の実態

企業過失と刑事罰

精神衛生法の法的性格

日本の法制度と英米法・実体刑法

犯罪による被害者

犯罪被害者の実態と補償の理論的根拠

被害者補償の諸問題

労働災害と刑事責任

刑事訴訟法の一部を改正する法律案について

犯罪被害者補償制度の基本問題

犯罪被害者補償制度立法化の論点(上)

犯罪被害者補償制度立法化の論点(中)

犯罪被害者補償制度立法化の論点(下)

労働安全衛生法と企業責任

企業災害と管理者の刑事責任

不能犯(再論)

法と精神医療

一九七四年 法律時報四六卷六号

一九七四年 判例タイムズ三一〇号

一九七四年 ジュリスト五七五号

一九七五年 ジュリスト五七八号

一九七五年 法律時報四七卷八号

一九七五年 ジュリスト六〇〇号

一九七五年 自由と正義二六卷五号

一九七五年 公明一五四号

一九七五年 刑法雑誌二〇卷二号

一九七五年 季刊労働法九八号

一九七六年 ジュリスト六一〇号

一九七六年 警察学論集二九卷六号

一九七六年 犯罪と非行二七号

一九七六年 犯罪と非行二八号

一九七六年 犯罪と非行二九号

一九七七年 季刊労働法一〇五号

一九七八年 労働法学研究会報二九卷一八号

一九七八年 同志社法学三〇卷二・三号

一九七八年 精神神経学雑誌八〇卷五号

- 犯罪被害補償制度
 労働災害と使用者の刑事責任
 イギリスの社会内処遇——社会奉仕命令を中心として
 旧過失論の現状
 犯罪被害者等給付金支給法
 イギリス一八世紀刑法思想の一断面
 イギリスにおける少年犯罪に対する司法的処遇
 刑事法学三〇年の歩みと展望
 公害・企業災害と檢察
 西ドイツにおける司法精神鑑定
 「四畳半襖の下張」事件上告審判決の意義と問題点
 学説と実務の理論的考察（刑法）
 環境破壊、消費者の権利侵害等と刑法改正
 矯正施設における医療
 保安処分問題の現状と論点
 法定的符合説弁護
 刑法における人の生命の保護
 構成要件の符合説について
 脳死問題への提言
- 一九七九年 ジュリスト六九一号
 一九七九年 季刊労働法一一三号
 一九八〇年 罪と罰一七卷四号
 一九八〇年 Law School二六号
 一九八〇年 ジュリスト七一九号
 一九八一年 『近代法思想の展開』（有斐閣）
 一九八一年 罪と罰一八卷四号
 一九八一年 ジュリスト七三二一号
 一九八一年 法学セミナー増刊総合特集シリーズ一六号・現代の檢察
 一九八一年 臨床精神医学一〇卷七号
 一九八一年 ジュリスト七三六号
 一九八二年 ジュリスト七五六号
 一九八二年 法と政策一四号
 一九八二年 石原一彦他編『現代刑罰法大系第七卷』（日本評論社）
 一九八二年 ジュリスト七七二一号
 一九八三年 『刑事法学の諸相（下）』（有斐閣）
 一九八四年 『団藤重光博士古稀祝賀論文集第一卷』（有斐閣）
 一九八四年 同志社法学三六卷四号
 一九八四年 ジュリスト八二二一号

犯罪被害者等給付金支給法

企業犯罪と法人処罰

刑法における脳死問題

校内暴力への対応―宇治市教育委員会の場合

コンピュータ犯罪と刑事立法の課題

死刑の時効について

年少少年の非行と保護観察

末期医療と医師の刑事責任

イギリス刑法とモラル

刑法改正作業の経緯と今後の方向性

コンピュータ関連犯罪と刑法の改正

最近における犯罪被害者の救済の実態

精神衛生法の論点

生物医療の法律問題

「筑波大学臓器移植生体死事件」考

法律家から見た精神衛生法の改正

薬事法違反事件と健康食品ブームの周辺

イギリス刑法とモラル

精神衛生法の改正について (上)

一九八四年 ジュリスト八〇五号

一九八五年 同志社法学三七巻三号

一九八五年 法律のひろば三八巻八号

一九八五年 ジュリスト八三六号

一九八五年 ジュリスト八四六号

一九八五年 判例タイムズ五五二号

一九八五年 犯罪と非行六五号

一九八五年 警察研究五六巻七号

一九八六年 同志社法学三八巻二号

一九八六年 ジュリスト八五二号

一九八六年 判例タイムズ六〇二号

一九八六年 法律のひろば三九巻三号

一九八六年 ジュリスト増刊総合特集四四・日本の医療

一九八六年 判例タイムズ六〇九号

一九八六年 判例タイムズ五九六号

一九八六年 判例タイムズ六一七号

一九八六年 法律のひろば三九巻四号

一九八七年 社会科学研究八巻一号

一九八七年 法律のひろば四〇巻六号

- 精神衛生法の改正について（下）
 精神障害者の人権と法
 被害者保護と犯罪被害給付制度
 近年の刑法の判例と最高裁判所
 刑事政策の現代の課題
- コンピュータ関連犯罪と刑法の一部改正（上）
 コンピュータ関連犯罪と刑法の一部改正（中）
 コンピュータ関連犯罪と刑法の一部改正（下）
- 精神保健法の概要とその問題点（上）
 精神保健法の概要とその問題点（下）
- 精神科医と法律家の距離
- 財産罪の保護法益と財物罪・利得罪
- 精神保健法の概要と今後の課題
- 脳死及び植物状態患者と医師の治療義務
- 「昭和の刑事政策」を読んで
- テレホンカードの改ざんと有価証券偽造の罪
- イギリスにおける犯罪被害者の救済
- 医師法17条違反の罪（無免許医業罪）と臨床実習
- 法人処罰の在り方（1）

- 一九八七年 法律のひろば四〇巻七号
 一九八七年 法学セミナー増刊総合特集シリーズ三七号・これからの精神医療
 一九八七年 法律のひろば四〇巻一号
 一九八八年 『今日の最高裁判所』（日本評論社）
 一九八八年 罪と罰二五巻四号
 一九八八年 判例タイムズ六四四号
 一九八八年 判例タイムズ六四五号
 一九八八年 判例タイムズ三九巻二号
 一九八八年 法律のひろば四一巻一一号
 一九八八年 法律のひろば四一巻一二号
 一九八八年 同志社法学四〇巻五号
 一九八九年 研修四八七号
 一九八九年 法と精神医療三号
 一九八九年 判例タイムズ四〇巻七号
 一九九〇年 法律のひろば四三号一卷
 一九九〇年 研修四九九号
 一九九一年 警察学論集四四巻一二号
 一九九一年 研修五一六号
 一九九一年 同志社法学四三巻二号

法人処罰の在り方(2)

矯正・保護の将来

終末期医療と自殺関与罪をめぐる問題

精神科医療と法及び人権(1)

精神科医療と法及び人権(2)

暴力団対策と新法の施行

暴力団対策法の意義と今後の課題

医師法一七条にいう「医業」の意義

解決が急がれる尊厳死問題

日本における精神医療制度の改正

実質的犯罪論について

犯罪と犯罪者の国際化と刑事政策上の課題

被害者補償と更生保護

折衷的相当因果関係説弁護

戦後50年の犯罪と刑事司法

法律問題としての生命倫理

「死刑制度のゆくえ」

実行行為と因果関係

最小限従属性説について

一九九一年 同志社法学四三卷三号

一九九二年 ジュリスト一〇〇〇号

一九九二年 研修五二八号

一九九二年 同志社法学四四卷二号

一九九二年 同志社法学四四卷三号

一九九二年 法律のひろば四五卷三号

一九九二年 刑政一〇三号八卷

一九九三年 『刑事法学の総合的検討(上)』(有斐閣)

一九九三年 研修五四一号

一九九三年 同志社法学四五卷二号

一九九五年 研修五六三号

一九九五年 法律のひろば四八卷一号

一九九五年 更生保護四六卷四号

一九九六年 研修五八一号

一九九六年 罪と罰三三卷二号

一九九六年 仏教三四号

一九九七年 法律時六九卷一〇卷

一九九七年 『中山研一先生古稀祝賀論文集第三卷』(成文堂)

一九九八年 『西原春夫先生古稀祝賀論文集第二卷』(成文堂)

名誉毀損罪と事実の真实性の誤信
 名誉毀損罪と事実の真实性の錯誤
 少年非行と少年法
 人の生命と刑法
 犯罪被害者対策の理念
 横領の罪における「横領」について
 過失犯の構造
 精神障害者の人権
 犯罪被害者保護関連二法成立の意義
 人の生命と刑法
 日本刑法における正犯と共犯の区別
 犯罪被害者問題の30年
 誤振込みによる預金の払戻と刑法上の取扱い

解説

注釈選挙犯罪(1)
 公害阻止運動と刑事規制
 注釈選挙犯罪(2)
 注釈選挙犯罪(3)

主要著作目録

一九九八年 研修六〇六号
 一九九八年 産大法学三二卷二・三卷
 一九九九年 法律時報七一巻一〇号
 一九九九年 警察学論集五一巻八号
 一九九九年 ジュリスト一一六三号
 二〇〇〇年 『宮澤浩一先生千古希祝賀論文集第三巻』(成文堂)
 二〇〇〇年 研修六二三号
 二〇〇〇年 同志社法学五二巻二号
 二〇〇〇年 現代刑事法二巻一一号
 二〇〇〇年 警察政策研究四号
 二〇〇二年 同志社法学五四巻二号
 二〇〇二年 警察学論集五五巻三号
 二〇〇三年 研修六六二号

一九六九年 同志社法学二二巻二号
 一九七六年 法学セミナー二五五号
 一九六九年 同志社法学二二巻三号
 一九六九年 同志社法学二二巻四号

同志社法学 五五巻七号

八八五 (一三七三)

臓器移植と刑法

間接補助

責任能力論の現状

刑事被害者補償をめぐる諸問題

森永ドライミルク差戻審判決めぐって

急迫不正の侵害

サルソグレラン静脈注射ショック死事件

公害阻止運動と刑事規制

刑事立法とモラル

因果関係の錯誤

フォト・コピーによる公文書偽造

犯罪被害者の救済を考える

刑法各論の重要問題 (1) 序・刑法各論の体系

刑法各論の重要問題 (2) 生命・身体に対する罪一

刑法各論の重要問題 (3) 生命・身体に対する罪二

刑法各論の重要問題 (4) 生命・身体に対する罪三

刑法各論の重要問題 (5) 生命・身体に対する罪四

刑法各論の重要問題 (6) 生命・身体に対する罪五

刑法各論の重要問題 (7) 生命・身体に対する罪六

一九七一年 法学セミナー一八〇号

一九七二年 刑法の判例

一九七三年 法学教室二号

一九七四年 法学セミナー二二〇号

一九七五年 法学セミナー二四六号

一九七六年 医事判例百選

一九七七年 法学セミナー二五五号

一九七八年 英米判例百選Ⅰ公法(一九七八年)

一九七八年 刑法判例百選Ⅰ総論

一九七八年 刑法判例百選Ⅱ各論

一九八〇年 法学セミナー三〇九号

一九八一年 Law School三一〇号

一九八一年 Law School三二二号

一九八一年 Law School三三三号

一九八一年 Law School三四四号

一九八一年 Law School三五五号

一九八一年 Law School三六六号

一九八一年 Law School三七七号

- 刑法各論の重要問題 (8) 生命・身体に対する罪七 一九八一年 Law School 三八号
- 刑法各論の重要問題 (9) 生命・身体に対する罪八 一九八一年 Law School 三九号
- 責任能力の鑑定 一九八一年 刑事訴訟法判例百選(第四版)
- 判例整理字〔刑法〕 一九八一年 法学セミナー 三一四号
- 刑法各論の重要問題 (10) 生命・身体に対する罪九 一九八二年 Law School 四〇号
- 刑法各論の重要問題 (11) 自由および個人生活の平穩に対する罪一 一九八二年 Law School 四一号
- 刑法各論の重要問題 (12) 自由および個人生活の平穩に対する罪二 一九八二年 Law School 四二号
- 刑法各論の重要問題 (13) 自由および個人生活の平穩に対する罪三 一九八二年 Law School 四三号
- 刑法各論の重要問題 (14) 自由および個人生活の平穩に対する罪四 一九八二年 Law School 四四号
- 刑法各論の重要問題 (15) 自由および個人生活の平穩に対する罪五 一九八二年 Law School 四五号
- 刑法各論の重要問題 (16) 名誉および信用に対する罪 一九八二年 Law School 四六号
- 刑法各論の重要問題 (17) 財産に対する罪一 一九八二年 Law School 四七号
- 刑法各論の重要問題 (18) 財産に対する罪二 一九八二年 Law School 四八号
- 刑法各論の重要問題 (19) 財産に対する罪三 一九八二年 Law School 四九号

- 刑法各論の重要問題 (20) 財産に対する罪四 一九八二年 Law School 五〇号
- 刑法各論の重要問題 (21) 財産に対する罪五 一九八二年 Law School 五一号
- 事実の錯誤と故意の個数 一九八二年 法学セミナ―三二九号
- 責任論の展望 一九八二年 Law School 五一号
- 刑法各論の重要問題 (22) 財産に対する罪六 一九八三年 Law School 五二号
- 刑法各論の重要問題 (23) 財産に対する罪七 一九八三年 Law School 五三号
- 刑法各論の重要問題 (24) 財産に対する罪八 一九八三年 Law School 五四号
- 刑法各論の重要問題 (25) 財産に対する罪九 一九八三年 Law School 五五号
- 同意殺人罪における錯誤の問題 一九八三年 法学教室三五号
- 刑の時効 一九八四年 法学セミナ―三五二号
- 刑法総論の重要問題 (1) 刑法の基礎的問題 一九八四年 警察学論集三七巻四号
- 刑法総論の重要問題 (2) 構成要件論 一九八四年 警察学論集三七巻五号
- 刑法総論の重要問題 (3) 危険犯と不作為犯 一九八四年 警察学論集三七巻六号
- 刑法総論の重要問題 (4) 因果関係と結果的加重犯 一九八四年 警察学論集三七巻七号
- 刑法総論の重要問題 (5) 因果関係論の個別問題 一九八四年 警察学論集三七巻八号
- 刑法総論の重要問題 (6) 具体的事実の錯誤 一九八四年 警察学論集三七巻九号
- 刑法総論の重要問題 (7) 抽象的事実の錯誤 一九八四年 警察学論集三七巻一〇号
- 刑法総論の重要問題 (8) 過失犯と結果的加重犯 一九八四年 警察学論集三七巻一一号
- 刑法総論の重要問題 (9) 違法性阻却事由 一九八四年 警察学論集三七巻一二号

- 刑法総論の重要問題 (10) 違法性阻却事由二
 一九八五年 警察学論集三八卷一号
 刑法総論の重要問題 (11) 正当防衛の要件
 一九八五年 警察学論集三八卷二号
 刑法総論の重要問題 (12) 正当防衛・緊急避難
 一九八四年 警察学論集三八卷三号
 因果関係の錯誤
 一九八四年 刑法判例百選Ⅰ総論(第二版)
 不動産の二重売買と横領
 一九八四年 刑法判例百選Ⅱ各論(第二版)
 責任主義
 一九八四年 ジュリスト増刊法律学の争点シリーズ一・刑法の争点
 責任能力の意義と基準
 一九八四年 ジュリスト増刊法律学の争点シリーズ一・刑法の争点
 責任論の展望
 一九八四年 ジュリスト増刊法律学の争点シリーズ一・刑法の争点
 電磁的記録物と文書性
 一九八四年 ジュリスト増刊法律学の争点シリーズ一・刑法の争点
 刑法総論の重要問題 (10) 違法性阻却事由二
 一九八五年 警察学論集三八卷一号
 刑法総論の重要問題 (11) 正当防衛の要件
 一九八五年 警察学論集三八卷二号
 コンピュータ犯罪(上)
 一九八五年 法学セミナー三六三号
 コンピュータ犯罪(下)
 一九八五年 法学セミナー三六四号
 犯罪被害者給付制度
 一九八五年 法学セミナー三七二号
 刑事責任論の重要問題
 一九八六年 法学教室七三号
 最新判例演習室・刑法―裁判官が刑事被告人を裁判所外に呼び出した行為と公務員職権濫用罪
 一九八六年 法学セミナー三七七号
 最新判例演習室・刑法―殺人につき防衛の意思を描くとはいえないとされた事例
 一九八六年 法学セミナー三七七号

最新判例演習室・刑法―収賄罪における職務行為としての職務に密接に関係ある行為の事例

一九八六年 法学セミナー三七八号

最新判例演習室・刑法―犯人に対する犯人隠避教唆罪の成立が問題となった事例

一九八六年 法学セミナー三七八号

最新判例演習室・刑法―強盗の手段としての脅迫により傷害を生じさせた場合と強盗致傷罪の成否

一九八六年 法学セミナー三七九号

最新判例演習室・刑法―「帝銀事件」人身保護請求事件

一九八六年 法学セミナー三七九号

最新判例演習室・刑法―刑法四二条一項の自首が適用された事例

一九八六年 法学セミナー三八〇号

最新判例演習室・刑法―ゴルフ場内の貯水池に沈んでいたロストボールを領得する行為と窃盗罪

一九八六年 法学セミナー三八〇号

最新判例演習室・刑法―刑法一一〇条一項の罪と公共の危険発生の認識の要否

一九八六年 法学セミナー三八一号

最新判例演習室・刑法―背任罪にいわゆる任務違背の行為に当たるとされた事例

一九八六年 法学セミナー三八一号

最新判例演習室・刑法―中止未遂を認定した事例

一九八六年 法学セミナー三八二号

最新判例演習室・刑法―刑法一一七条ノ二および同二二一条の業務の意義

一九八六年 法学セミナー三八二号

最新判例演習室・刑法―覚せい剤を麻薬であるコカインと誤認して所持した場合の罪責と没収

一九八六年 法学セミナー三八三号

最新判例演習室・刑法―公文書の内容に改ざんを加えたうえそのコピーを作成した場合の擬律

一九八六年 法学セミナー三八三号

最新判例演習室・刑法―刑法五六条三項の法意

一九八六年 法学セミナー三八四号

最新判例演習室・刑法―市長の再選後に担当すべき職務に関し受託取賄罪が成立するとされた事例

一九八六年 法学セミナー三八四号

最新判例演習室・刑法―窃盗犯人でない者が窃盗犯人と意思連絡の上財物の取還を防ぐため被害者に傷害を負わせた場合の擬律

一九八七年 法学セミナー三八五号

最新判例演習室・刑法―強姦の実行着手の時期および着手前後にわたる一連の暴行により傷害が生じた場合の罪責

一九八七年 法学セミナー三八五号

最新判例演習室・刑法―刑法二二五条ノ二にいう「近親其他被拐取者ノ安否ヲ憂慮スル者」の意義

一九八七年 法学セミナー三八六号

最新判例演習室・刑法―刑法二六〇条の「他人ノ」建造物に当たるとされた事例

一九八七年 法学セミナー三八六号

最新判例演習室・刑法―後方安全確認義務違反と追突事故との間には相当因果関係が認められないとされた事例

一九八七年 法学セミナー三八七号

最新判例演習室・刑法―保護責任者遺棄致死罪を認めた 原判決を破棄して重過失致死罪を認めた事例

一九八七年 法学セミナー三八七号

最新判例演習室・刑法―同一日時場所において覚せい剤の一部を営利目的で残りを非営利目的で所持した場合の罪数関係

一九八七年 法学セミナー三八八号

最新判例演習室・刑法―窃盗罪または詐欺罪と二項強盗による強盗殺人未遂との包括一罪になるとされた事例

一九八七年 法学セミナー三八八号

最新判例演習室・刑法―強姦致傷の犯人が被害者の殺害を謀り金品を奪取した事案と強盗殺人未遂罪の成否

一九八七年 法学セミナー三八九号

最新判例演習室・刑法―侵入具携帯罪と常習累犯窃盗罪との罪数関係

一九八七年 法学セミナー三八九号

最新判例演習室・刑法―販売のための見本誌、出版元への返品目的で所持していた場合とわいせつ図画販売目的所持罪

一九八七年 法学セミナー三九〇号

最新判例演習室・刑法―渡り廊下でつながれた建物が刑法一〇八条の一個の建造物に当たるとされた事例

一九八七年 法学セミナー三九〇号

最新判例演習室・刑法―暴力団員に対する殺人につき正当防衛の成立が認められた事例

一九八七年 法学セミナー三九一号

最新判例演習室・刑法―共謀共同正犯の成立を否定した事例

一九八七年 法学セミナー三九一号

最新判例演習室・刑法―卓議会委員会の条例案採決等の事務は威力業務妨害罪の「業務」に当たるか

一九八七年 法学セミナー三九二号

最新判例演習室・刑法―強制わいせつ目的に基づく暴行脅迫によって畏怖した被害者から金員を領得した事例

一九八七年 法学セミナー三九二号

最新判例演習室・刑法―ゴルフ場内のいわゆるロストボールが窃盗罪の客体になるとされた事例

一九八七年 法学セミナー三九三号

最新判例演習室・刑法―法人に対する脅迫罪の成否

一九八七年 法学セミナー三九三号

最新判例演習室・刑法―刑法二二五条ノ二にいう「近親其他被拐取者ノ安否ヲ憂慮スル者」に関する最高裁の判断

一九八七年 法学セミナー三九四号

最新判例演習室・刑法―夫につき妻に対する強姦罪の成立を認めた事例

一九八七年 法学セミナー三九四号

最新判例演習室・刑法―過失犯（業務上失火罪）の共同正犯の成立が認められた事例

一九八七年 法学セミナー三九五号

最新判例演習室・刑法―誤想過剰防衛の成否

一九八七年 法学セミナー三九五号

最新判例演習室・刑法―偽造文書の縮小コピーの作成・使用と偽造文書行使罪

一九八七年 法学セミナー三九六号

最新判例演習室・刑法―常習累犯窃盗罪と侵入具携帯罪との罪数に関する最高裁の判断

一九八七年 法学セミナー三九七号

最新判例演習室・刑法―殺人未遂と中止犯

一九八七年 法学セミナー三九七号

最新判例演習室・刑法―死刑選択の基準

一九八七年 刑法の争点（新版）

責任能力の意義と基準

責任論の展望

電磁的記録の文書性

最新判例演習室・刑法―相当な理由にもとづく違法性の錯誤は故意を阻却するか

一九八七年 刑法の争点(新版)

最新判例演習室・刑法―往來危険罪における具体的危険の認識の要否

一九八八年 法学セミナー三九八号

最新判例演習室・刑法―決闘殺人罪か殺人罪か

一九八八年 法学セミナー三九九号

最新判例演習室・刑法―刑法九六条の罪の客体になる有効な差押の標示

一九八八年 法学セミナー三九九号

最新判例演習室・刑法―本人の逮捕勾留中に身代り犯人を立てる行為の罪責

一九八八年 法学セミナー四〇〇号

最新判例演習室・刑法―事後強盜罪の共同正犯

一九八八年 法学セミナー四〇〇号

最新判例演習室・刑法―不法領得の意思の内容

一九八八年 法学セミナー四〇一号

最新判例演習室・刑法―余罪の自供と自首の成否

一九八八年 法学セミナー四〇一号

最新判例演習室・刑法―不法領得の意思の意義、傷害罪と強盜罪の罪数関係

一九八八年 法学セミナー四〇二号

最新判例演習室・刑法―墮胎により出生させた未熟児に対する保護責任者遺棄致死罪

一九八八年 法学セミナー四〇二号

最新判例演習室・刑法―胎児に病変を発生させた出生後死亡させた場合における業務上過失致死罪の成否

一九八八年 法学セミナー四〇三号

最新判例演習室・刑法―強盗罪と恐喝罪の間

一九八八年 法学セミナー四〇四号

最新判例演習室・刑法―強盗致死罪における傷害の程度

一九八八年 法学セミナー四〇四号

最新判例演習室・刑法―窃盗罪の実行の着手時期

一九八八年 法学セミナー四〇五号

最新判例演習室・刑法―被害者の生存の可能性としたい損壊罪

一九八八年 法学セミナー四〇六号

最新判例演習室・刑法―承継的共同正犯の成立要件

一九八八年 法学セミナー四〇七号

最新判例演習室・刑法―強制猥褻罪における主観的要素

一九八八年 法学セミナー四〇七号

最新判例演習室・刑法―複数の建造物の現住建造物性

一九八八年 法学セミナー四〇七号

最新判例演習室・刑法―国会議員の職務権限

一九八八年 法学セミナー四〇八号

最新判例演習室・刑法―窃盗の既遂時期

一九八八年 法学セミナー四〇八号

最新判例演習室・刑法―被害者を心理的に追いつめ自殺させた場合と殺人罪

一九八九年 法学セミナー四〇九号

最新判例演習室・刑法―強姦後逃走のため加えた暴行による傷害と強姦致死罪

一九八九年 法学セミナー四〇九号

最新判例演習室・刑法―電話盗聴行為と職権濫用罪

一九八九年 法学セミナー四一〇号

最新判例演習室・刑法―共謀による凶器準備集合罪の成否

一九八九年 法学セミナー四一〇号

最新判例演習室・過失傷害行為と結果との間に故意行為が介在した場合の因果関係

一九八九年 法学セミナー四一一号

最新判例演習室・官公署の不動産登記の嘱託と刑法一五七条にいう「申立」

一九八九年 法学セミナー四一一号

刑法と社会倫理

一九九〇年 法学教室一二〇号

刑法各論の意義と最近の問題点

一九九一年 法学教室一二二号

幫助の因果性

一九九一年 刑法判例百選Ⅰ総論(第三版)(第四版・一九九七年)

二項詐欺における処分行為と利得行為との関係

一九九一年 刑法判例百選Ⅱ各論(第三版)(第四版・一九九七年)

共犯の諸問題

一九九二年 受験新法四二卷一号

刑法が目指すもの

一九九三年 法学教室一五三号

実質的犯罪論と形式的犯罪論

一九九三年 法学教室一五八号

【対談】エキサイティング刑法(1)―形式的犯罪論と実質的犯罪論(相手・前田雅英)

一九九六年 法学教室一九三号

- 【対談】 エキサイティング刑法（2） — 実行行為と因果関係（相手・前田雅英）
一九九六年 法学教室一九四号
- 【対談】 エキサイティング刑法（3） — 不作為犯について（相手・前田雅英）
一九九六年 法学教室一九五号
- 「リビングウイル」と「インフォームド・コンセント」
一九九六年 ジュリスト一〇八二号
- 【対談】 エキサイティング刑法（4） — 違法性について（1）（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室一九六号
- 【対談】 エキサイティング刑法（5） — 違法性について（2）（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室一九七号
- 【対談】 エキサイティング刑法（6） — 故意について（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室一九八号
- 【対談】 エキサイティング刑法（7） — 錯誤について（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室一九九号
- 【対談】 エキサイティング刑法（8） — 過失について（1）（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室二〇〇号
- 【対談】 エキサイティング刑法（9） — 過失について（2）（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室二〇一号
- 【対談】 エキサイティング刑法（10） — 責任能力と責任主義（1）（相手・前田雅英）
一九九七年 法学教室二〇二号

【対談】 エキサイティング刑法(11) —責任能力と責任主義(2) (相手・前田雅英)

一九九七年 法学教室二〇三号

【対談】 エキサイティング刑法(12) —責任とその阻却 一九九七年 法学教室二〇四号

【対談】 エキサイティング刑法(13) —中止犯と不能犯 (相手・前田雅英)

一九九七年 法学教室二〇五号

【対談】 エキサイティング刑法(14) —共犯と正犯(1) (相手・前田雅英)

一九九七年 法学教室二〇六号

【対談】 エキサイティング刑法(15) —共犯と正犯(2) (相手・前田雅英)

一九九七年 法学教室二〇七号

【対談】 エキサイティング刑法(16) —共同正犯 (相手・前田雅英)

一九九四年 刑法判例百選Ⅱ各論(第四版)

【対談】 エキサイティング刑法(17) —教唆と幫助 (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二〇八号

【対談】 エキサイティング刑法(18) —共犯の諸問題 (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二〇九号

【対談】 エキサイティング刑法(19) —生命・身体に対する罪(1) (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二一〇号

【対談】 エキサイティング刑法(19) —生命・身体に対する罪(1) (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二一一号

幫助の因果性

二項詐欺における処分行為と利得行為との関係

【対談】 エキサイティング刑法(16) —共同正犯 (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二〇八号

【対談】 エキサイティング刑法(17) —教唆と幫助 (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二〇九号

【対談】 エキサイティング刑法(18) —共犯の諸問題 (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二一〇号

【対談】 エキサイティング刑法(19) —生命・身体に対する罪(1) (相手・前田雅英)

一九九八年 法学教室二一一号

- 【対談】 エキサイティング刑法（20） — 生命・身体に対する罪（2）（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二二号
- 【対談】 エキサイティング刑法（21） — 自由に対する罪（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二三号
- 【対談】 エキサイティング刑法（22） — 名誉・信用・業務に対する罪（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二四号
- 【対談】 エキサイティング刑法（23） — 財産犯の客体と保護法益（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二五号
- 【対談】 エキサイティング刑法（24） — 不法領得の意思と占有の意義（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二六号
- 【対談】 エキサイティング刑法（25） — 強盗罪（1）（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二七号
- 【対談】 エキサイティング刑法（26） — 強盗罪（2）（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二八号
- 【対談】 エキサイティング刑法（27） — 詐欺罪（相手・前田雅英）
一九九八年 法学教室二二九号
- 【対談】 エキサイティング刑法（28） — 横領罪（相手・前田雅英）
一九九九年 法学教室二二〇号

【対談】 エキサイティング刑法 (29) — 背任罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二一号

【対談】 エキサイティング刑法 (30) — 盗品等に関する罪・遺棄罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二二号

【対談】 エキサイティング刑法 (31) — 放火罪・往来妨害罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二三号

【対談】 エキサイティング刑法 (32) — 通貨偽造罪・有価証券偽造罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二四号

【対談】 エキサイティング刑法 (33) — 文書偽造罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二五号

【対談】 エキサイティング刑法 (34) — 公務の執行を妨害する罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二六号

【対談】 エキサイティング刑法 (35) — 犯人蔵匿・証拠隠滅の罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二七号

【対談】 エキサイティング刑法 (36) — 職権濫用の罪・賄賂の罪 (相手・前田雅英)

一九九九年 法学教室 三二八号

判例評釈

労働争議における闘争手段としてのピラ貼り行為と建造物損壊罪

一九六五年 同志社法学一七卷二号

売春防止法12条のいわゆる管理売春の罪が成立するとされた事例

一九六八年 判例タイムズ二二二号

没収に代えて追徴すべき賄賂の算定基準時

一九六九年 同志社法学二一卷一号

承継的共同正犯成立の範囲（共著）

一九七一年 同志社法学二二卷三号

豊乳術により患者を死亡させた事案につき医師の過失を否定した事例

一九七三年 判例タイムズ二九四号

無免許でしたレントゲン撮影と期待可能性

一九七五年 昭和四九年度重要判例解説

牧会行為を業務行為とした判決

一九七六年 昭和五〇年度重要判例解説

原因において自由な行為

一九七七年 昭和五一年度重要判例解説

中止未遂を認めた事例

一九七八年 昭和五二年度重要判例解説

麻薬を覚せい剤と誤認してわが国に持ち込み、通関手続を経ずにこれを輸入した場合の罪責

一九八〇年 昭和五四年度重要判例解説

常習賭博罪の常習性が認められた事例

一九八一年 昭和五五年度重要判例解説

暴行と傷害

一九八〇年 西原春夫他編『判例刑法研究第五卷』（有斐閣）

住居侵入罪における「侵入」の意義

一九八三年 判例評論二九八号

キャッシュカードの不正使用と財産罪

一九八五年 判例タイムズ五五〇号

死刑判決確定後拘留されたまま三〇年を経過した場合と刑の時効の成否

一九八五年 法律のひろば三八卷一一号

背任罪における「他人の為め其事務を処理する者」の意義

一九八六年 判例タイムズ六〇〇号

複数の建造物の現住建造物性

一九八七年 判例評論二二九号

墮胎により出生させた未熟児を放置した医師につき保護責任者遺棄致死罪が成立するとされた事例

一九八八年 判例タイムズ六七〇号

刑法一七五条と憲法二一条・刑法一七五条にいう「猥褻ノ図画」にあたりとされた事例

一九八三年 判例評論二九六号

建造物の管理者が立入り拒否の意思を積極的に明示していない場合と建造物侵入罪の成否

一九八三年 判例評論二九八号

心神喪失又は心神耗弱の判断の性質・責任能力判断の前提となる生物学的要素及び心理学的要素についての判断権

一九八四年 判例評論三〇六号

精神分裂病者の責任能力

一九八五年 判例評論三一六号

渡り廊下でつながれた建物が刑法一〇八条の一個の建造物に当たるとされた事例

一九八七年 判例評論三三九号

不法領得の意思に関する事例

一九八八年 判例評論三五二号

故意の一事例

一九八九年 判例評論三六四号

官公署の不動産登記の囑託と刑法二五七条一項にいう「申立」

一九八九年 判例評論三六九号

公衆浴場法八条一号の無許可営業罪における無許可営業の故意が認められないとされた事例

一九九〇年 判例評論三七九号

そのほか

【書評】 中山研一著『因果関係』

一九六八年 同志社法学一九卷四号

【紹介】 ミュラー・ディーツ「刑法における責任觀念の限界」

一九六八年 判例タイムズ一九卷一二号

刑法（学界回顧一九六七年）（共著）

一九六七年 法律時報三九卷一四号

刑法（学界回顧一九六八年）（共著）

一九六八年 法律時報四〇卷一三号

刑法（学界回顧一九六九年）（共著）

一九六九年 法律時報四一巻一四号

刑法（学界回顧一九七〇年）（共著）

一九七〇年 法律時報四二巻一四号

【書評】 中山研一著「現代刑法学の課題」

一九七〇年 同志社法学二二巻二号

【紹介】 G・ドワーキン「臓器移植とイギリス法」

一九七一年 同志社法学二三巻一号

クロス著「イギリスにおける刑の選択・量定制度」

一九七二年 判例タイムズ二七二号

【座談会】 刑法改正審議の経過と各国における刑法改正の動向

一九七二年 平野龍一他編『刑法改正・刑法改正案批判』（日本評論社）

【紹介】 RUPERT GROSS, PUNISHMENT, PRISON AND THE PUBLIC 1971

一九七四年 同志社法学二五卷二号

RUPERT GROSS, PUNISHMENT, PRISON AND THE PUBLIC 1971

一九七四年 刑法雑誌二〇卷一号

刑法 (一九七五年判例回顧)

一九七五年 法律時報四七卷一四号

刑法 (一九七六年判例回顧)

一九七六年 法律時報四八卷一三三号

西原春夫著「交通事故と過失の認定」

一九七六年 法律時報四八卷五号

刑事判例の動き

一九七七年 ジュリスト六四二号

刑法 (一九七七年判例回顧)

一九七七年 法律時報四九卷一四号

第二回国際被害者学シンポジウム

一九七八年 刑法雑誌二二卷二二号

カール・ヒルティとの出会い

一九八〇年 書齋の窓二九四号

刑法判例の動き

一九九一年 昭和五四年度重要判例解説

刑法判例の動き

一九八一年 昭和五五年度重要判例解説

【書評】 墨谷葵著『責任能力基準の研究』

一九八一年 法律時報五三卷五号

刑法判例の動き

一九八二年 昭和五六年度重要判例解説

【書評】 加藤久雄『治療・改善処分の研究』

一九八二年 法律時報五四卷四号

私の読書案内―刑法

一九八二年 法学教室二〇号

刑法判例の動き

一九八三年 昭和五七年度重要判例解説

【書評】 法務総合研究所研究部紀要26第一分冊

一九八三年 法律のひろば三六卷一〇号

- 【対談】永山事件最高裁判決と死刑制度
 刑法判例の動き
 一九八三年 法学セミナー三四五号
- 【翻訳】パウマン編「行刑法の改正」(1)
 一九八四年 同志社法学三五卷六号
- 【翻訳】パウマン編「行刑法の改正」(2)
 刑法判例の動き
 一九八五年 昭和五九年度重要判例解説
 一九八六年 昭和六〇年度重要判例解説
- 【書評】町野朔著『患者の自己決定権と法』
 生命倫理と法
 一九八六年 ジュリスト八六〇号
 一九八六年 書齋の窓三五八号刑法判例の動き
- 刑法判例の動き
 一九八七年 昭和六一年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九八八年 昭和六二年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九八九年 昭和六三年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九九〇年 平成元年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九九一年 平成二年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九九二年 平成三年度重要判例解説
- 【対談】共犯に関する諸問題(相手・曾根威彦)
 一九九二年 受験新法四二卷一〇号
- 刑法判例の動き
 一九九三年 平成四年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九九四年 平成五年度重要判例解説
- 刑法判例の動き
 一九九五年 平成六年度重要判例解説
- 生命倫理
 一九九六年 仏教三四号

主要著作目録

同志社法学 五五卷七号

九〇六 (一三九四)

リビング・ウィルについて

一九九六年 月刊健康四四一号

(巻頭言) 犯罪被害者支援と交通事故被害者

一九九七年 被害者学研究七号

刑事法学におけるパラダイム転換

一九九八年 犯罪と非行一一六号

墨谷葵博士を偲んで

一九九八年 法と精神医療一二号

ストーリー規制法はどういう法律か

二〇〇二年 書齋の窓五一六号

私学同志社の過去・現在・未来

二〇〇三年 学術の動向八八号

被害者学の展望

二〇〇三年 犯罪と非行一三九号